

# TAMA ART UNIVERSITY

Kaminoge Campus, 3-15-34 Kaminoge, Setagaya-ku, Tokyo, Japan 158 / Tel.(03) 702-1141 Hachioji Campus, 1723 Yarimizu, Hachioji, Tokyo, Japan 192-03 / Tel.(0426) 76-8611

報道関係資料 PRESS RELEASE

1995年 8月  
多摩美術大学附属美術館

## 世界の刺繍 ～山辺コレクションによる～

- 会 期 1995年 9月18日(土)～10月25日(水)  
午前10時～午後5時 ※休館日＝日曜日、祝日  
入場無料
- 会 場 多摩美術大学附属美術館  
東京都八王子市鍵水2-1723 (最寄駅＝JR線/京王線 橋本駅)  
※橋本駅北口より京王バス(中央大学行)にて多摩美大前下車
- 主 催 多摩美術大学附属美術館
- 関連事業 講演会「刺繍の世界とその魅力」  
講 師＝山辺知行氏(多摩美術大学附属美術館館長)  
期 日＝10月14日(土) 15:00～16:30  
会 場＝多摩美術大学附属美術館(入場自由)

《この展覧会に関するお問い合わせ先》

多摩美術大学附属美術館

小林、または仙仁まで

☎ 0426-76-8611(代)

FAX 0426-76-2935

このたび、多摩美術大学附属美術館では、「世界の刺繍～山辺コレクションによる～」を開催いたします。

針と糸で布地の面に模様を縫い現して行く刺繍というものが、元来技術的には非常に素朴なものであり、その起源は古く、恐らく皮や裂を縫い合わせる裁縫の技術が始まってからあまり遠くない頃に始まったことと思われます。模様加工としても、織りや染による緋や縞、絞りなどよりも早く始まったのではないかと考えられます。その長い伝統と技術的に簡単な割に、色数や形象が思いのままに表現出来ることもあって、古くからその分布度は大変に広く、今日、世界で刺繍の行われているところを捜すよりも、その行われていないところを数える方が容易なくらいです。そしてその土地で手に入る繊維材料、染料などが使われ、特長が現れているとともに、文様の題材も各地各様の自然現象や信仰などによって、それぞれに異なっています。さらにそれらの交流などによって、多様な変化を見せているので、文様史の上での文様の流れやその発展に関して、重要な資料を提供してくれます。

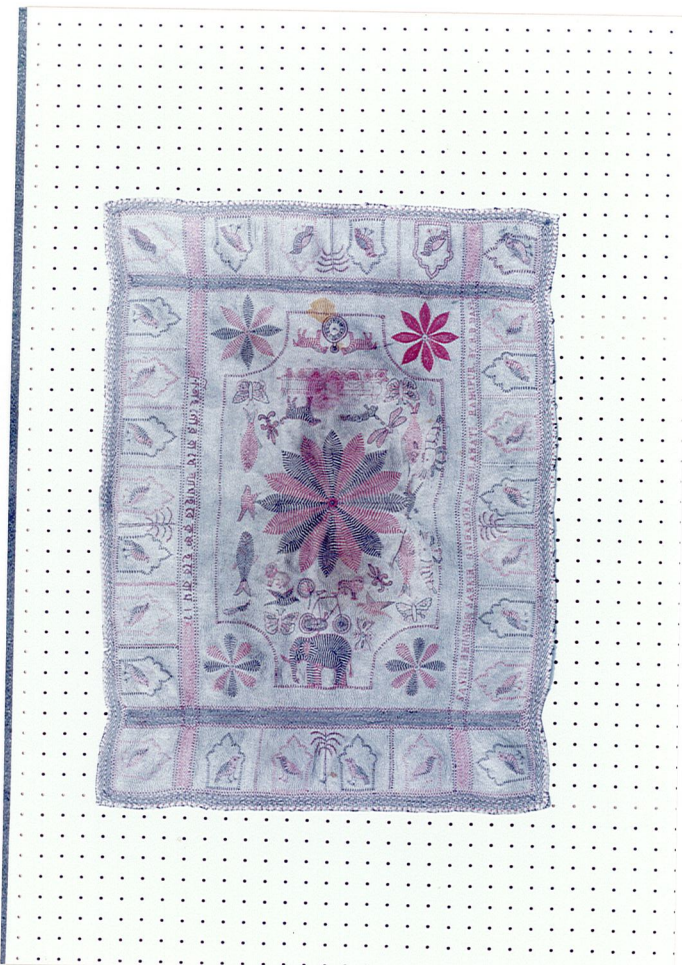
技術に関しては、もともと簡単なものですから、はじめは民俗的な自家製、自家消費の家内工芸であったものが、交流、交易等の段階を経て専門の技術者による精巧華麗なものが作られるようになりました。今日では、次第に数は減ったものの、いわゆる素人による自家用の家内工芸的なものも地方によっては厳然と純度の高い伝統を伝え、後者の玄人芸は、勿論近世以後の商業主義の波に乗って、大きな発展を遂げ、中には — 刺繍というものの本旨を逸脱したと思われるような — 機械による生産も行われています。玄人芸と素人芸という、その間に技術の精粗、文様表現の巧拙等によって大きな違いがある様に考えられますが、自分自身や家族近親のために煩わしさをいとわず作られたものには、不特定多数の人のために報酬を目当てに作られたものには見られない精巧無比のなものや優れた伝統的な意匠を凝らしたのもののあることも見逃せません。

今回は、欧米、中南米、アジア、日本といった世界各地の刺繍の中から、新旧の優れた作品約50点を展示いたします。

これらの貴重な資料は、当館の館長でもある山辺知行の世界的に著名な染織コレクションより厳選されたものです。世界に数多く存在する、その多彩にして、特徴的な刺繍の世界をお楽しみいただければと思います。



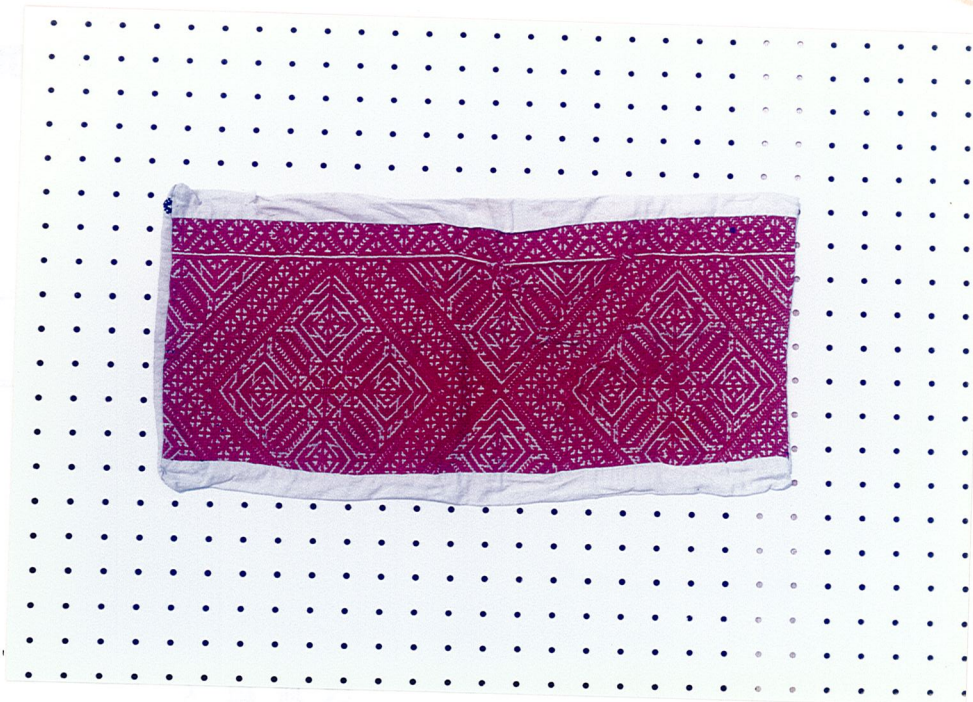
「テーブル掛 (祭壇用)」 ギリシア 18世紀 63cm×67cm



「カンタ刺繍裂」 インド 19～20世紀 55cm×75cm

# TAMA ART UNIVERSITY

Kaminoge Campus, 3-15-34 Kaminoge, Setagaya-ku, Tokyo, Japan 158 / Tel. (03) 702-1141 Hachioji Campus, 1723 Yarlizu, Hachioji, Tokyo, Japan 192-03 / Tel. (0426) 76-8611



「刺繡裂」 モロッコ 19～20世紀 22cm×47cm



「刺繡」 タイ (苗族) 現代 40cm×40cm